

還暦おやじの
新人農業者手帳

平成27年度新規就農者

遊佐宏文



▲安納芋スイーツで粗茶を一服いかがですか？

一、忙中閑あり!?

農業者になるずっと以前のこと。晴耕雨読という言葉にあこがれていた時期がありました。晴れの日に畑を耕して雨が降れば作業を休んで読書にいそむというのが直接の意味で、悠々自適の生活のことをいいます。農業者がそうした生活をしているなどと思つたことはありませんが、実際に農業者になってみてその忙しさに目が回る毎日です。

晴れの日にはフル回転で農作業をし、雨が降れば本を読むどころか、雨の日にしかできないような諸作業、例えばトラクターの定期点検やオイル交換などの整備をはじめ農協に提出する各種野菜の生産履歴の記入、果ては青色申告事業者として確定申告に備えた領収書の整理などやるべきことはいっぱいです。私のようにハウスで施設栽培する農業者は雨

でもハウスの温度・湿度管理のほか野菜の生育によっては出荷調製などの作業も当然あります。悠々自適の生活をしている農業者などどこを探しても見つからないでしょう。

しかし、どんなに忙しい中でも時間（閑・ひま）を作つて悠々自適の生き方に近づくことはできるに違いない、とも思うのです。毎日の忙しさの中、特に草取りをしている時によく考えることがあります。それは将来自分の農園内で「茶の湯」をやりたいということ。茶の湯の根本は客人を迎えるにあたり、自ら水を汲み、火を熾して湯を沸かし、席を整え、季節の草花を飾り、静寂の中で茶を喫するというものですが、農園内に茶室を造つて客人を迎え「農」を語らいながらお茶をいただくのが農業者としての私の夢です。

茶の湯との出会いは単純なものでした。防衛大学校二年生の時、茶道部に入るとお茶とともに甘くて美味しいお菓子を食べれるらしいから一緒に行ってくれ、と同室の同期生に誘われて入部したのがきっかけでした。甘党の私にとっては魅力的な誘いだったのです。流派は茶道紫野流という京都大徳寺で免許皆伝を修められた秋野月紫先生に習っていました。甘味に釣られて入った私も卒業するまでにはマネージャーとして鎌倉の円覚寺や高德院、靖国神社での茶会を企画しつつ茶の湯の触りの部分を経験させていただいたのですが、そうした経験が二十年后になんと外国の地で役立つことになったのです。

ミャンマーのアウンサン・スーチーさんに大使公邸の茶室でお茶を差し上げるといふ類まれな機会を得たのでした。当時スーチーさんは軍事情権によって自宅軟禁されている最中でしたが、日本大使の招待に応じ、大使ご夫妻と私達夫婦の四人でお迎えし私が点じたお茶を喫していただきました。日本の軍人さんが入れたお茶をいただくとは貴重な体験をした、というのがスーチーさんの最初の言葉でしたが、軍事情権と敵対している人物に接触したということが政権側の軍人に不都合だったのでしょう、私の妻が政権幹部のご夫人方との会合で数か月にわたり口をきいてもらえないというオマケ（意地悪）が付きました。



▲自宅軟禁中のアウンサン・スーチーさんにお茶を点じた遊佐夫妻

二、通年農家のシルバー・ウィーク??

茶室ができるのはまだまだ先のこと。当分の間は忙しさに押し潰されないように自己管理しながら、閑をみつけてまずは体調を整えていくことになりそうです。

北海道の農業者のほとんどの方々は正月休みを謳歌していると思います。しかし通年栽培している私には正月休みはありません。元旦はゆっくりするとしても、ハウスを維持する以上毎日畑に通い、栽培している野菜の世話をします。雪が心配ということも大きな要因です。そんな私にとって比較的安心してハウスを離れることができるのが十月下旬から十一月上旬の期間です。日照があってもハウスを少し開けておくと苗が焼けることもなく、しばれることもないようです。どうやらこの期間がゴールデン・ウィークならぬ還暦おやじのシルバー・ウィークとして心身のリフレッシュができる大切な時期になりました。さあ「健康長寿」の旅に出かけるとうしましよ。 (了)

(平成三十年十月十日記)